

令和 5 年 10 月 30 日現在

機関番号：12601  
 研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(A））  
 研究期間：2020～2022  
 課題番号：19KK0319  
 研究課題名（和文）中東諸国間のセキュリティ協力：イスラエルと湾岸産油国・トルコとの非公式関係の解明  
  
 研究課題名（英文）Studies on Informal Security Cooperation among Middle Eastern Countries:  
 Israeli-Gulf and Israeli-Turkish Relations  
  
 研究代表者  
 池内 恵（Ikeuchi, Satoshi）  
  
 東京大学・先端科学技術研究センター・教授  
  
 研究者番号：40390702  
 交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,600,000円  
 渡航期間： 6ヶ月

研究成果の概要（和文）：イスラエルがサウジアラビア・UAEなどの湾岸アラブ産油国との間で水面化で進める安全保障協力について、イスラエルの主要な研究機関との関係構築を通して調査研究を行った。2020年8月に表面化したイスラエル・UAEの間のアブラハム合意を先取りして研究を開始し、合意以後のイスラエル・UAE関係の発展を、公式に公開されている部分と、非公式に行われている部分の双方について現地のシンクタンクと共に詳細に観察した結果、湾岸産油国は指導層の高次の戦略的判断によりイスラエルとの関係改善を維持し、イスラエルの要望を原則として拒否はしないものの、全面的にも受け入れず、関係は非対称なものとして持続する傾向が確認された。

#### 研究成果の学術的意義や社会的意義

2020年4月より実施された本研究は、イスラエルと湾岸産油国との間の、まだ公式化されていなかった安全保障上の関係の強化を対象とする、創発的で先駆的なものだった。2020年8月に発表されたイスラエルとUAE及びバーレーンとの「アブラハム合意」によって、このテーマの重要性や先駆性は、現実の展開によって明らかになった。イスラエル・パレスチナ紛争を構造的な最重要の要因と見做し、そこから派生する石油ショックの危険性を日本にとっての最大の懸念事項としてきた中東国際政治研究の主要な含意を塗り替え、イスラエルを含む中東地域の統合に重点を置く外交政策の必要性に帰結する学術的・政策的な意義を持つ研究となった。

研究成果の概要（英文）：The main focus of research was the growing informal security cooperation in which Israel and Gulf Arab countries such as Saudi Arabia and the UAE. Throughout this research, framework of inter-institutional cooperation has been built between Japan, Israel and other Middle Eastern countries. The importance of the topic of this research was reaffirmed by the Abraham Accords between Israel and the UAE, which surfaced in August 2020 and the examination of the official and unofficial follow-up of the Accords has been the main part of this research. As a result, the Gulf countries' interest in maintaining official diplomatic relations is based on a long-term and high-level strategic decisions and thus maintained in spite of short term disturbances caused by Israeli-Palestinian conflicts and Israeli domestic turmoil. Israeli-Gulf relations has been kept unsymmetrical and Israeli effort to widen and deepen the relationship tends not to be rejected but postponed indefinitely.

研究分野：中東・イスラーム学

キーワード：中東研究 国際安全保障 中東政策 外交政策

## 1. 研究開始当初の背景

研究開始当初において、中東国際政治の主要な要因は、イスラエルとパレスチナ間の紛争(パレスチナ問題)や、イスラエルとのアラブ諸国間の紛争(アラブ・イスラエル紛争)であるとみなされることが多かった。アラブ諸国において、エジプト・シリア・イラクといった従来の主要国が、アラブ民族主義を国民を動員し周辺の競合国と競うイデオロギーとして用い、イスラエルを敵視・排除する姿勢を公的言説において支配的にし、外交的な姿勢としてアラブ世界に定着させてきた。アラブ・イスラエル紛争の結果として1973年のような「オイル・ショック」が生じることが、中東・ペルシア湾岸に全面的にエネルギー資源の供給を依存する日本にとって重大な影響を及ぼす帰結として問題視されたため、日本の対中東政策は、アラブ民族主義的な主張への配慮を伴うものであり続けてきた。

学術的には、イスラエルを中東政治、特に隣接するアラブ諸国とは敵対的な関係にある「異物」として扱い、イスラエルと周辺諸国との敵対的な関係を主に対象とする学術的な潮流が支配的であった。外交政策や通称貿易関係においては、イスラエルを地域秩序から排除し、イスラエルとの政治・経済関係を第三国が有することを牽制する「アラブ・ボイコット」の矛先となることへの懸念が、日本のイスラエルとの関係の強化に制約を課してきた。これらの認識により、実際には存在するイスラエルと湾岸産油国との関係に目を向けることは往々にして妨げられてきた。それによって、イスラエルが関与し湾岸産油国が主導する中東地域の秩序形成の主要な部分を対象化することが中東政治研究の重要な課題となることが遅れ、その結果として、外交政策の課題として、イスラエルが関与した中東の地域秩序の形成に目を向け、そこに日本が積極的に関与することも、政策アジェンダとして形成されることがなかった。

## 2. 研究の目的

本研究の一つの目的は、水面下に隠されてきたイスラエルと湾岸産油国との関係、特に安全保障を主軸とした戦略的関係の所在を、現地政府の政策に係る人物への聴取といったインフォーマルな情報の入手も含めた手法により明らかにし、それによって、中東国際政治研究を、イスラエルを一つの主軸とし、湾岸産油国を中心としたものとして(民族主義的な主張を行うエジプトのような国々を中心とはせず)、再定義することにあつた。それによって、イスラエルが主導して進む、アラブ諸国が目指す対イラン・対トルコでの軍事バランスの均衡にイスラエルが果たす役割や、中東への関心が低下した米国の中東関与の引き止めのためにイスラエルが行う施策と、それが引き起こす中東地域全体への波及といった新たな事象を対象化することがより容易となる。

## 3. 研究の方法

本研究は、水面下で非公式に進められるイスラエルと湾岸産油国との関係を、現地調査によって解明し、その中東地域の国際秩序の再編に及ぼす影響、さらには米国や中国といった域外大国を含む国際秩序への波及を対象化するものである。そのために、メディア報道やプレスリリースといった公開された公式な資料を用いるのはもちろんであるが、政府情報の公開性が乏しく、言論・報道の自由に大きな制約を伴う湾岸産油国とイスラエルとの関係を扱っているが故に、公開・公式情報が乏しいことが、研究の遂行上の問題としてあらかじめ予想された。そのため、本研究課題は、イスラエルの大学や外交安全保障シンクタンクとの関係構築を進め、現地の調査研究拠点を客員研究員等としての所属や、会議枠組みの設定などで、実質の上で形成し、現地の非公式な情報流通ネットワークの中に身を置いて、対象を観察する方法を用いた。そのために関係を構築し、実際に滞在あるいは訪問し、共催で非公開・公開の会議を開催した相手方機関は、テルアビブ大学モシェダヤン中東アフリカ研究センター(MDC)に2022年5月から2023年3月にかけて客員上級研究員として滞在したほか、会議の共催などを行なったテルアビブ大学国家安全保障研究所(INSS)、ライヒマン大学アバ・エバン外交・国際問題研究所(AEI)、ヘブライ大学人文学部等である。同時に、イスラエルのこれらの機関が関係強化を進めるアンワル・ガルガーシュ外交アカデミー(UAE・アブダビ)等共関係を強化し、共催による非公開会合を開催するなどして、非公式な情報ネットワークの中に、日本の研究機関と研究者を位置づける作業を行った。

## 4. 研究成果

本研究の成果は、2020年8月に発表されたアブラハム合意によって、突如として公開のものとなったイスラエルと湾岸産油国との関係の進展を、イスラエルおよびUAEの大学および外交・安全保障シンクタンクとの協業により、非公開・公開の国際会議を開催して、専門家の見解を聴取することにより導出された。2022年3月16日にイスラエル・ヘルツリヤのライヒマン大学の主催により開催され、東大先端研ROLESが企画協力した、国際会議「イスラエル・日本・湾岸の未来：変貌する中東における新たな機会(The Future of Israel-Japan-Gulf: New Opportunities in a Changing Middle East)」、2022年10月25日にライヒマン大学で開催された非公開ラウンドテーブル"Between the Far East and the Middle East: Japan & Israel vis-à-vis the

Superpower Competition and the Role of the United States"や、同日にテルアビブ大学モシエダヤン中東アフリカ研究センター（MDC）及び東アジア学科と協力して開催した公開講演会及びシンポジウム「日本のグローバル戦略と中東（Japan's Global Strategy and the Middle East）」である。また、2022年12月13日には、UAE アブダビのアンワル・ガルガーシュ外交アカデミーで、同アカデミー及びドバイ公共政策調査センター（B'huth）及びイスラエルのライヒマン大学外交国際関係研究所との共催で、日・湾岸・イスラエルの「三極」による非公開ラウンドテーブル（A Closed Roundtable: Japan-Gulf-Israel Trilateral Discussion “Prospects of the Japan-Gulf-Israel Trilateral Cooperation”）を開催した。

これらの非公開・公開の場での、イスラエル・湾岸産油国との公式・非公式関係の進展の分析と、そこへの日本の関与の提言は、共著論文 Satoshi Ikeuchi and Gedaliah Afterman, "The Time Has Come For a Japan-Israel Strategic Partnership," *The Arena*, Mar 14, 2022. 等で公的な場で展開された。また、これらの事業の背景となる地域情勢や、日本の政策へのインプリケーションは、雑誌の対談という形式で刊行されている（岩間陽子・池内恵「エルサレムで振り返る 2022年の世界」『公研』2022年12月号「対話」）

本研究によって探究した、イスラエルと湾岸産油国との関係強化とそれによる中東の国際秩序の再編と、日本の中東外交の新たな課題に関して、客員研究員として滞在し、非公開ディスカッションや公開シンポジウム等で協力した、イスラエルの諸研究機関の研究者との共編・共著による英文の論文集を企画しており、東京大学大学院総合文化研究科の GSI 叢書の一環としての刊行を目指して準備を行なっている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 池内恵	4. 巻 論文集
2. 論文標題 グローバル化の中でのイスラーム	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 國分功一郎・清水光明編『地球的思考 グローバル・スタディーズの課題』（水声社）	6. 最初と最後の頁 103-147
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池内恵	4. 巻 第46巻4号（2021年7月）
2. 論文標題 池内恵「エジプトのナイル流域諸国に対する安全保障外交」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中東協力センターニュース	6. 最初と最後の頁 1-8頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池内恵	4. 巻 論文集
2. 論文標題 中東	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 川島真・池内恵編『新興国から見るアフターコロナの時代 米中対立の間に広がる世界』（東京大学出版会）	6. 最初と最後の頁 143-155
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Satoshi Ikeuchi and Gedaliah Afterman	4. 巻 No. 11
2. 論文標題 The Time Has Come For a Japan-Israel Strategic Partnership	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The Arena, March 14, 2022.	6. 最初と最後の頁 34-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 池内恵	4. 巻 No. 92
2. 論文標題 すばらしい「まだら状」の新世界	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アステイオン	6. 最初と最後の頁 12-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池内恵	4. 巻 2020年7月号
2. 論文標題 エジプトの対アフリカ政策の苦境と活路： リビア・エチオピアとの二正面作戦	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中東協力センターニュース	6. 最初と最後の頁 17-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計4件

1. 著者名 Satoshi Ikeuchi (池内恵)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Destek Publishing	5. 総ページ数 250
3. 書名 How Did We End Up Here	

1. 著者名 Satoshi Ikeuchi (池内恵)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Destek Publishing	5. 総ページ数 240
3. 書名 Bu Noktaya Nasil Geldik?	

1. 著者名 川島真・池内恵(編)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 192
3. 書名 新興国から見るアフターコロナの時代 米中対立の間に広がる世界	

1. 著者名 Satoshi Ikeuchi (池内恵)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Destek	5. 総ページ数 250
3. 書名 How Did We End Up Here	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>国際会議「未来のイスラエル・日本・湾岸協力」  <a href="https://roles.rcast.u-tokyo.ac.jp/event/20220316">https://roles.rcast.u-tokyo.ac.jp/event/20220316</a>  The Future of Israel-Japan-Gulf Relations  <a href="https://roles.rcast.u-tokyo.ac.jp/event/en20220316">https://roles.rcast.u-tokyo.ac.jp/event/en20220316</a>  イスラエル月間@東大駒場リサーチキャンパス  <a href="https://roles.rcast.u-tokyo.ac.jp/news/20220131">https://roles.rcast.u-tokyo.ac.jp/news/20220131</a>  Israel Month at Komaba Research Campus  <a href="https://roles.rcast.u-tokyo.ac.jp/en/news/en20220131">https://roles.rcast.u-tokyo.ac.jp/en/news/en20220131</a></p>
---

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	フリードマン ブランドン  (Friedman Brandon)	テルアビブ大学・モシェダヤン中東アフリカ研究センター・研究部長	
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	アフターマン ゲダリア  (Afterman Gedaliah)	ライヒマン大学・アバ・エバン外交国際問題研究所・アジア政策プログラム長	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計6件

国際研究集会 The Future of Israel-Japan-Gulf Relations: New opportunities in a changing Middle East	開催年 2021年～2022年
国際研究集会 ROLES-IGSDA Joint Webinar Series ROLES-IGSDA Joint Seminar Series on “Drones and Cannons: Changing Balance of Power in and around the Middle East”	開催年 2021年～2022年
国際研究集会 Israel Month at UTokyo Komaba Research Campus in 2022	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 Between the Far East and the Middle East: Japan & Israel vis-à-vis the Superpower Competition and the Role of the United States	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 Japan's Global Strategy and the Middle East	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 A Closed Roundtable: Japan-Gulf-Israel Trilateral Discussion on the Prospects of the Japan-Gulf-Israel Trilateral Cooperation	開催年 2022年～2022年

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
イスラエル	テルアビブ大学モシェダヤン中東アフリカ研究センター	テルアビブ大学国家安全保障研究所	ライヒマン大学外交研究所	
アラブ首長国連邦	アンワル・ガルガーシュ外交アカデミー	ドバイ公共政策センター		